

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

4.28-5.1 動労千葉破壊「オルグ」を粉砕しよう！



79.4.29

全国版No.11

国鉄動力車労働組合

千葉地方本部

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九・(公衆)四三二二七二〇七

これが労働運動なのか！ ——本部「暴力集団の実態」——

全国の動労組合員の皆さん！ 動労中央本部を牛耳る暴力集団は四月二十八日～五月一日に「オルグ」と称する破壊策動を再び繰り返そうとしています。全国の心ある動労組合員をターゲットにして、その蔭で、自らは暴力をもって破壊襲撃の限りを尽くすという暴力集団の攻撃が続けば続くほど、動労千葉一四〇〇名組合員の団結はますます固まっています。動労組合員の汗の結晶である組合費を湯水のように使いながら行われた、暴力分子の動労私物化のためにのみ有効な動労千葉に対する攻撃が、動労全体にとっていかに無駄なものであったかということ、この間の経過は示しています。来るなら来い！ 動労千葉は4・28～5・1破壊策動を断固はね返す決意に燃えています。

デマと居直り！

「本部」暴力集団の千葉地本排除↓動労千葉破壊策動の特徴点として次のようなことが指摘できます。

第一に、当初は心ある組合員の眼をごまかすために、オルグらしい体裁を整え、しかし、千葉地本が絶対受け入れられない「条件」を「機関決定」と称してデッチ上げ、その理由にもならない理由をもって「暴力・テロ・リンチ」を正当化しようとするやり方です。これが一〇年来千葉地本排除策動のみに専念してきた暴力集団の本性なのです。

「これがオルグか！ 竹竿、ボール、かけや、ベンチ、ノコギリ、投げ石！」

あらかじめ竹竿、ボール、かけや、ベンチ、ノコギリを用意し、ナップザックに石を詰め、最初から話し合う気など全くなく、いきなり投石しながら庁舎を破壊し、乱入を図ろうとする津田沼、勝浦、新小岩、成田等におけるやり方、これがオルグと言えるのでしょうか。

しかも、4・17津田沼においてはたった一〇名の組合員に対し一五〇名で襲いかかり、引き倒した組合員を竹竿でメッタ突きにし、けとばし、片岡支部長の頭を石でぶちまけて頭がい骨々折の重傷を負わせるといふやり方。これが労働組合のやることでしょうか。

しかも、この暴力集団の中に明らかに「国鉄職員以外の者」が入り込んでいる実態を、われわれは具体的証拠ではっきりと擲んでいます。

まさにドロボウ！

第二に、この「本部」暴力集団は全くのドロボウ集団だという実態です。組合員のロッカーを手当り次第にこじ開け、中をかきまわし、組合事務所の鍵や窓ガラスを破壊して入り込み、書類やビラは勿論、壁掛け時

計や職員の手さげカバン更には、事務用品に至るまで盗んで行くのです。しかも自らが「統制処分された地本執行部以外の一四〇〇名は動労の組合員だ」と主張しているながら、支部旗やヘルメットに至るまで盗むということは一体なんでしょうか。まさに、破壊のための襲撃としか認められない実態なのです。

暴力を容認する動労中央 ●卑劣分子！

第三に、以上のような暴力集団の実態を動労中央本部ははっきりと知っていたいながらこれを容認しているのです。

そればかりではなく、「千葉が暴力をふるったから」という嘘によって正当化しようとしています。電話連絡四九一号や動力車新聞号外「千葉地本再建情報」などで述べられている「千葉地本の暴力」は全てデタラメです。

津山大会の後で千葉地本からいくら要請しても「一線を画する」方針を説明するためのオルグに入ってくることをしなかつた青木書記長や城石組織部長に代表される卑劣な動労幹部には、無理やり「家庭オルグ」に送り込まれ、年輩の動労千葉組合員にジュンジュンと論されて泣き出した一九才の青年部員の涙の意味などは理解できないのでしよう。

暴力集団をあやつり、あるいはあやつられていたる動労中央の卑劣分子は、良心的な組合員をターゲットにし、あるいはボディガードに守られる以外に千葉の地へ足を踏み入れる勇氣はないのです。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！